第19回日本の次世代リーダー養成塾 山本先生ご講義 塾生の感想

ご講義日　2022年7月29日

＊ウイルスや細菌かあるからこそ私たちは強く生きていけるのだと考えさせられた授業だった。化学に対する考え方について、正しさとさ価値観によってことなるため、どの考え方が正しいかどうかを判断するのは難しい。生命とは何か、自分とは何か、私って何者？というこの3つの問いかけは答えを出すのは非常に難しいなと感じた。感染症の根絶は難しい、といわれたときはやはりなと思った。しかし、そのようなことに対して自然免疫が存在している、といって貰えて安心した。

＊新型コロナウイルスとの今後の共存性について、難しい内容の部分も多かったがウイルスに関する新しい知識や考え方(ウイルスの一部が悪なだけで、全て害があるとは言えないなど)を知ることができた。「疫病史」という観点は文理どちらも考えるべき内容で、過去の事例を調べることで今後や将来のウイルスとの共存に役立てる、という点にとても興味を持った。また、終息という点においても人それぞれの価値観があり、何をもって「終わった」とするのかによって共存という考え方も左右されていくのではないかと考えた。

＊人に迷惑をかけない。世界の現実を自分の目で確認する。人間は他の生物の中で生かされている。それと共存共栄する必要がある。視点を変えることの大切さ。

＊現在タイムリーな話題のコロナウイルス感染症の名前の由来を聞けてとても興味深かったです。表面にかんむりのような突起でcrownがラテン語でコロナという意味だそうです。また、文系理系の選択はあくまでも手段の一つで両方使えることもあると学びました。文理選択に迷っている私にとってとても為になるお話でした。

＊新型コロナウイルスはエンベロープという脂質二重膜をもつ一本鎖DNAによってできたウイルスである。一本鎖DNA出できているということはその後の変異を起こしやすく、種類が沢山ある、ということです。アフリカでのコレラや30年前に流行ったエイズもどれも新型のウイルスであるという共通点があります。ウイルスというのは自分では複製する能力を持たず、自分が生き残るためには感染した相手を死なせることはしない、という結論に至りました。確かに子供が最初に貰うウイルスはお母さんからです。人間はウイルスがあって強くなることができます。

＊感染現象が起こるのは生命現象によるものであり、人類は感染症のおかげで発展してきたことや、ウイルスの性質は変わってくるので現在のワクチンに完璧なものはないことを学んだ。感染症に対して今までは悪でしかないと思ってきたが、この講義を通して感染症があったからこそ人類が発展してきたと考え直すことができた。また、現在の医療の仕組みというものはどうなっているのか理解できた。

＊医療が発展していない遠い昔、時代によって体調不良はその人自身の悪さを表していると考えられていたのを聞いて驚きました。病は気から、ということわざや、地震や新型コロナウイルス感染症の蔓延が起こっているときも、様々なデマが流れました。人は、未知と遭遇した際にどのように行動すればいいのか、これからの人生でその答えを見つけて行きたいです。

＊感染症の研究では、現代に残された情報を読み解き、過去を再構築するという文系の要素も大きいと知り、新たな発見だった。また感染症は、ヒトと他生物間の相互関係の中にうまれ、社会の状況にも影響を受けたり与えたりしているのだと分かった。科学に、価値観も関わっているという言葉も印象に残

った。感染症対策の内容から、その社会が何を重視しているかを知ることができるのは興味深かった。歴史では、誤った情報やうその情報も、当時の価値観を知るための資料となるが、疫病史にもそれは必要なのかが気になった。

＊若い世代が受ける新型コロナウイルスのワクチンは社会防衛であったというお話に一番衝撃を受けました。3年もコロナと共存していると、コロナに関してのことは知り尽くした気分になっていたけれど、まだまだ未知な事が沢山あるように感じて恐怖を覚えました。講義からどの時代にもどこかの国で感染症が流行っていることに気付かされ、これから新しいウイルスが流行することは逃れたくても逃れられない現実なんだと感じました。

＊まず、ウイルスには様々な説があり、未だに生物かそうでないかが確立されていないことに驚いた。また、“ウイルスの視点から”ものを見るという考え、その着目点が今まで自分にはなかったため、一概にウイルスは悪だ、と言えないことも知識を得たことでわかりました。さらに、ウイルスから人間が学べることもあるようで、生物としての働きや多様性のある世界のなかでそれぞれの存在がどのように確立しているかが分かりました。

＊新型コロナウイルス感染症をテーマに、さまざまな分野での話を聞くことができてとても有意義な時間でした。たくさんの知識を得られたと共に、理系の学問ではあるものの、文系の知識も必要になるのだなと感じました。近代細菌学という言葉をみた時は難しそうだというイメージを持ちましたが、自分の身の回りのことに関わっているとわかり聞いていて楽しかったです。これからはコロナ感染症をテーマに自分の生活に関わる身近なことを考えてみたいと思います。

＊AISの流行、地球温暖化、貧困が今の大きな問題である。新型コロナウイルスの「コロナ」は、ラテン語で「王冠」という意味である。また、新型コロナウイルスは、SARS コロナウイルス II のことである。これまでに6億人が感染しており、根絶は不可能だという。新型コロナウイルスも、「インフルエンザ」に学び、だんだんと穏やかになり、日常化していく。ウイルスの視点から見ると、増殖を他の生物に依存している。ヒト・マイクロバイオームといい、人の体内の微生物である。

＊僕は医学についての知識がほとんどなかったので、ここ数年で取り上げられているコロナウイルスを含む感染症について初めて聞くことばかりでした。山本先生は、インフルエンザは世界人口20億人のうち5億人が感染した事でおさまったと仰っており、ある程度の人が免疫を獲得することでコロナウイルスもおさまるという予測を教えてくださいました。私たちは、感染症は害であり、怖いものだというイメージがありますが、感染症は必ずしも全てが悪いものではなく、病原体と感染される生物の交流であることを知りました。

＊私は山本先生の講義をもう一回聞きたいほど素晴らしかったと思っています。特にウイルスという一般的には悪いといわれているものの見方を変えて共存という考え方もあるという思考を知ったときは特に驚きました。これまでの偏見を壊して世の中を考えられるようになったと感じました。また統計学的な手法でマラリアを解析して防疫に役立つというのはとてもすごいなと思いました。

＊「過去から学んで現代にどう生かすのか」という言葉が強く印象に残っています。私は文系で理系の話は本当に、難しく感じてしまうのですが、何かが苦手であっても知ることや学ぶことは大切なのだということが分かりました。塾生の中には「なぜアメリカではマスクをしていないのに、日本ではその規制が厳しいのか」という質問をする方がいましたが、価値観の違いにその答えがあるというのはとても面白いと感じました。私はマスクを付けるのが嫌なのでなのでこんなに厳しいのかと、日本を軽蔑してい

ました。しかし、国民が政府に協力するという面では規則を守っているので良い面もあるのだと、他の角度からの見方も学ぶことができました。

＊ただ大学で研究し、学生に教育を行うだけでなく大規模な災害が発生した場所で社会貢献をも行なっている姿に感銘を受けました。被災地での医療支援は知らないことが多く、限られた物資の中でどのように患者さんに医療を施すのかいかに感染を抑えるのか講義を受けていて興味深かったです。また、感染症の歴史や感染症の発生方法など知らなかったことを多く知ることができました。特に天然痘撲滅の経緯に話で、消滅しかかっていた天然痘を人間が後押しして撲滅させたという話が面白かったです。

＊医療の研究では歴史に起こった出来事から解決策を考えるとおっしゃっていました。この部分はAHSにも活用して話し合いを進めることができました。今流行しているコロナウイルスの話で、日本が他の国と違う行動を取っているのかがよく分かる講義でした。「どういう社会にしたいかによって人々の行動が変わる」という言葉に共感できて印象に残りました。コロナウイルスはもうなくせないからインフルエンザに学ぶと良いと私もこの講義を通して思いました。

＊３年前から新型コロナウイルスが流行し始め、私たちは青春を失いました。それからもう３年という月日が経っているなんて実感が湧きません。当初はワクチンもなく、多くの人が亡くなっていました。私たちの時代にこのようなウイルスが蔓延したのは本当に恐ろしいことだなと思いました。新型コロナウイルスについて悪く考えてばかりでしたが、今日山本先生の話を聞いて、ウイルスに対する免疫をつけるということはある意味必要なのかなと感じました。感染症が蔓延するのは良いことではないし、恐ろしいことです。では、それらの感染症を穏やかなものにし、自分たちの社会に取り組むことは重要だと思いました。それが社会に役立っているということもわかりました。

＊新型コロナについてのお話がとても印象に残りました。今まで何となくしていたアルコール消毒ですが、新型コロナには脂肪の二重膜があり、それにはアルコール消毒か有効なのだということを学べ、何となくするのと意識してするのでは、心持ちが変わるなと感じました。また、先生はゼロにすることではなく共存することに意識を置いており、免疫のある社会を作ることが大切だとお仰られていました。柔軟な発想力を持ち、忍耐強く過ごしていきたいです。

＊山本さんの講義を聴いて、社会の一員として医学は役立っていることが分かりました。特に印象的だったのが貧困問題についてのお話でした。社会の学習から貧困で苦しんでいる人達の元へ医師の方が行って治療をしているのを知っていました。また、現在では新型コロナウィルス感染症も問題になっています。私は将来、医師になって沢山の人を救いたいです。社会貢献ができる医師を目指してこれから、頑張っていきます。

＊コロナの収束予想のように何事も物事は予測できるのと実感した。また、コロナは変異するウイルスであるため、ある程度の感染者予想はできても、新たな種は生まれないのかと疑問に思った。ウイルスを根絶するのでなくて、共生していくことで、従来よりもより免疫の高い生活ができると聞き納得できた。

＊命を救えなかった露沖の敗北感は一生ぬぐえない、ハイチ地震の時にかつての住居が破壊され人々が無くなっていた時の悲しみとやるせなさは忘れられないとおっしゃっていたのが印象的でした。また、先生は国境なき医師団とは異なる形で支援をされており、微生物の視点から感染症に向き合うという視点をお持ちでいたことがかなり興味深かったです。そのような人道支援と研究という立場から将来的に多くの人々を救うという二足の草鞋も素敵な生き方だと感じました。

＊スライドの中でコロナウイルスとサル痘、昔と今の写真など比較することが多かった。過去と未来を比較することが大切だと読みとった。「人は大量の微生物でできているじゃないか」「微生物によってというか、微生物自体が自分なんじゃないか」など山本氏の哲学的な考えが好きだ。文化によって異なるコロナ対策の話を聞いた時、価値観と化学の解決の難しい結びつきを実感した。夢は寄り道も必要だという言葉に、自分自身は寄り道ばかりしているので反省すると同時に共感した。

＊「共生」という概念を中心に置いた新たな感染症対策を考えることが重要であるという考えに感銘を受けました。教育×研究＋社会貢献という考え方も初めてでした。「降水確率は 50%です→科学」「なので傘を持っていく→その人の価値観」という考えも面白いなと思いました。コロナは 1 本鎖の RNA で変異が起こりやすい。つまり、流行する前から変異することが分かっていたため、薬や治療を考えていなかったというのが分かりました。

＊根絶という考えを常に持つのは少し危険である。まず、病気を根絶できる条件は致死率が高いこと、ヒトにのみ感染すること、すごく有効なワクチンが開発されること、観戦者全員に症状があることである。この条件を満たさない場合、根絶ではなく共存が望ましい。逆にこの条件を満たすものは、ヒトと共存できないことを表している。また、根絶すると逆に新たな病原体が入りやすくなる可能性も高い。ゼロは危険。医学⇒ヒトの価値観の「善」「悪」を反映している。しかし、感染症を理解するにはヒトの価値観だけでなく、他の動物、植物の視点も大切。価値観の議論は分断しか生まない。人の価値観は人によって異なり、「正しさ」は存在しない。

＊コロナウイルスは一度かかるとかかることはないということはなく、まだ効果的な薬も出ないので講義の中にあった、なくしていくために必要な要素に全く当てはまっていないのでマスクをつけずに外で話しながら食事というのはだいぶ先になりそうだなと改めて思った。サル痘はテレビで見ていて心配してたけど話を聞いて少し安心した。

＊海外ではコロナがインフルのような扱いになっていて、それは価値観による優先順位の違いで、ウイルスとの共生を考えていることを理解するべきだと思った。また、私の保健の先生も過度な手洗い消毒は逆効果で、マスクも必要最低限でいいと言っていて、山本さんも感染症がない社会よりもある社会のほうが強いと仰っていて、日本人も感染症に対する見方を改めるべきなのかもしれないと思った。

＊私は山本太郎氏の講義で、これからの with コロナの時代にどう生きるかについて学びました。そこで、コロナによる死亡者について、安倍・菅政権時よりも期間の短い現在の岸田政権が既にそれを超えており様々な人々から無策だといわれている現状や、重症化しやすい高齢者の行動を制限すべきなのか、それとも若者の行動を制限すべきなのかなどの質問もしてみたかったです。実際に現場にいる人の声を聴くことが出来た非常に貴重な講義でした。

＊私は講義を受けて色々なことを学びました。まず、世界で流行した感染ウイルスはたくさんあることを知りました。そのような感染ウイルスは、長い月日をかけ研究をし続けることで感染拡大を防ぐことができます。その研究に携わった方々には感謝するべきだと思いました。次に、感染症を無くすという考えよりも、感染症と共存するという考え方が大切だと知りました。現在流行っているコロナウイルスは、早いことに約 2 年経過しました。しかしながら今でも感染者は増え続けています。その現実を私たちは受け止め、生活しなくてはならないと思いました。

＊これまでウイルスと聞くとなんとなく悪いものというイメージがあったが、ウイルスを根絶するのではなく、ウイルスと共存していくことの重要性を知り意外だった。ウイルスは無くなった方がいいので

はないかと思っていたが、かえって免疫機能が失われるため注視する必要があることも知った。また価値観の否定は分断につながってしまうため、人類もウイルスと共存してきたように多様性を受け入れ、互いを認め合うある社会をつくれるよう励んでいきたいと思った。

＊コロナウイルスについて、これからどうやって向き合っていくかについて興味があった。日本、韓国、台湾ではコロナの終息を目指してやっているが、アメリカやヨーロッパなどでは経済を優先したり、活動を増やしていくことを重要視しているのだと思った。こうしてみると、アジアと欧米の方で意見や物の見方や価値観が違うなと思った。私はコロナだけではなく、10 年後 20 年後もずっと感染症とともに生きていくことを知った。少し悲しくなったけど免疫などいくつかのメリットもあってよかった。

＊コロナウイルスなどの感染症がどのように社会に入り込んでくるのか知ることができました。また、その人の価値観で正しさが変わってくるとマスクを例にお話していて分かりやすかったです。きっと今までに数え切れないほどの葛藤を世界でしている山本先生の話を聞いて、社会貢献に対しての考え方に刺激を貰いました。他の先生方も仰っていたように、本を読むことが本当に大切だとわかりました。

＊今回の講義で、山本先生のこれまでの生い立ちから今に至るまで、1 番気になったのが、海外に行かれた時の話で、研究やその種類がいくつもあることがとても印象的でした。大学に入学した時に貴重な考えとして、「過去を知ることに文理関係なく、色々な手法を使えばいい」という言葉が心に残っています。それはリーダーになる人にも同じことが言えるのかなと思いました。今回の講義で学んだこと、言葉を今後の自分に生きるように頑張っていきたいと思います。

＊私もウイルスや微生物について興味があったので、エイズやコレラ、コロナについての話がとても興味深かったです。コレラは 4000 人以上の人々が亡くなっており、コロナは 600 万人の人々が亡くなっていることを知り、とても驚きました。コロナでは 6 億人の人々が感染していることも知りました。2、3 年でこんなにもの人々がコロナに感染していることを学びました。

＊コロナウイルスがいずれインフルエンザと同じ区分になるのは前々から聞いていました。しかし、その過程で人・国の価値観によってマスクの有無の統一などの問題が起こりうるとは考えていませんでした。やはり、そこには国単位での共有・理解が大切だと感じました。単なる流行病と考えるか、未だ重大な病と考えるかはそれぞれだとは思います。それを、双方否定せず受け入れるのが必要だと考えます。

＊私が特に印象に残ったところは、コロナ収束は国によって捉え方が違うという点だ。ある国ではコロナ患者数がゼロになったら収束だと捉え、ある国ではみんなが終わりだと思ったら終わりだという考え方もある。そこに生まれた背景、価値観などによりコロナこ捉え方もそれぞれ違うという事に気付かされた。コロナ収束後の未来というのは考えるのが難しい。だからこそ沢山の学びを得て、視野を広げて多様な価値観を認める未来を考えてみようと思う。

＊山本太郎さんのご講義を聞いて、現在流行している新型コロナウイルスについても詳しく話していただき、私が今暮らしている世の中について考える良いきっかけとなりました。医療の面から世界で活躍されている山本さんの仕事にとても、憧れを持ちました。自分も今後、世界で活躍したいと考えているので山本さんの講義を活かしていきたいと思います。

＊いろいろな生物と環境との関わりに関心があって、人間と自然環境、微生物や細菌との相互作用について考えてみたい。ウィルスなどを人為的に作ったり変異させたりして人間に感染させる事はできる

か、また、そのようなものが作れた場合、生物兵器として用いられるとどうなるのかということも気になった。

＊ウイルスや感染症に対しての知識がなかったその分たくさんの学びがあった。感染症は悪いものではなく、免疫の穴を埋めるためのものだという話が衝撃的だった。今この世の中を困難に追い込む感染症がもたらす社会にもたらす利益に注目して新しい視点でウイルスを見ていこうと思う。また、山本太郎さんがおっしゃっていたように、文系理系という枠に固執せずに自分自身がやらたいと思うことに真っ直ぐに取り組んでいこうと思った。

＊相手の価値観の否定は分離を生むだけ。コレラ感染症は、米汁のような便がでる感染症。感染症の要因は様々ある。感染症との大切なことは共生である。

＊人間はウイルスとの共存をすることで健康に生きれていることがわかりました。感染症があることで、免疫がつきウイルスに強い体になったり、防ぐことはできないが、社会にすぐさま取り込むことで穏やかにしたりすることが重要だと学びました。今のコロナウイルス対策は、ヨーロッパとアジアで異なり、価値観の違いがあります。論争すると分裂しか生まないと講義の中でお話しされていました。どんなことも争いにならないようにしなければいけないと思いました。

＊この講義ではコロナなどのウイルスなどは離れようとするのではなく共存するという気持ちを持つのが大事だと学びましたウイルスと共存することで人間もそれに対応し強くなってきた歴史があるので過度に怖がるのではなくうまく付き合っていくことが大事だと感じました。

＊多くの死を目の当たりにしてもいまだ慣れず、その死を背負って生きていると語った山本先生は本当に良い医師なんだと思いました。根絶の難しいウイルスとは上手く共存共生が出来るようになればいいなと思いました。

＊そもそもコロナをなくそうとすることが違うということを学んだ。私たちの体には微生物や細菌が生きていることを新たに学んだ。また、子宮内はほぼ無菌で、産まれて親から菌をもらうこと、免疫は昔から引き継がれていることに驚いた。

＊山本さんが色々な所へ行き、そして多くの支援をしたときいて、とても感動した。それと同時に、各場所でおきた災害や感染症流行のお話しや写真を見聞きして、自分の知らないところで、 こんなにも多くの人が死に、こんなひどい被害がおきていると知り、驚きと、自分の無知を思い知った。特に印象的だったのは山本さんがコレラ流行の地に行き、医療活動をしていた時のお話しでコレラに感染した患者の排泄物がまるで水のようであったことです。この写真を見て、コレラとはこんな酷い症状が出るものであると知り、そしてこの講義が無ければ知ることが出来なかったと考えました。

＊ヒトはウイルスと共生しなければいけないという言葉に初めは驚きました。ウイルス視点で感染症について考えるのは新しいなと思いました。確かに、ウイルスはヒトに敵対しているわけではないと思ったからです。感染症がある社会の方がいい社会になるという部分について、やはり困難を乗り越えた方が強くたくましくなるんだと感じました。今まで知識のない分野でしたが、すごく興味が湧きました。

＊山本先生の講義の中では、現在の新型コロナウィルスが流行する世界の中で with コロナの時代として私たちがどのようにして未知のウィルスと戦っていくのかというお話だった。山本さん自身災害後の復旧活動や、難民支援などたくさんの国に行かれていて実際に現地の写真なども見せていただいて具体的なイメージを持つことができた。講義の中で特に印象に残っているのは、ウィルスを根絶するのは難しい。だからウィルスと共生、共存していきながらいかに、集団、個人の利益を最大化できるかとい

うことが大切だという所だ。まだ自分自身２回しかワクチンを打っていないのでしっかりと接種して社会防衛に参加したい。

＊山本太郎氏の With コロナについての講義では、感染症の歴史や、新型コロナウイルス感染症の対策などについて聞きました。その中で、ウイルスとの「共生」「共存」が必要という事を聞き、今の日本の動きからもその意図が見えて、とても興味深く、いろいろ考えさせられる事がありました。ちょうど私たちは、学生の時にコロナが流行ったコロナ世代であり、ウイルスと「共生」「共存」していかなければならないので、この講義で聞いたことをこれから活かしていきたいと思います。

＊山本さんの講義では感染症の歴史や新型コロナウイルスのこと、ウイルスや微生物との共存・共生の考え方について学ぶことができました。ヒト・マイクロバイオームや宿主との関係といった「ウイルスの視点から感染症を考える」というお話が自分にとって今までになかった考え方でとても面白かったです。また、途中にあった「文理選択が全てではなく、必要な際に必要なことを学び使えば良い」という考え方がとても好きで、心に残りました。

＊建物がパンケーキを潰した時のように崩れることをパンケーキクラッシュという。ハイチ コレラ→国連の WHO が世界に呼びかけ。環境医学→気候変動・人と動物。医療生態学→感染症を引き起こすウイルスや媒介する生物の視点で感染症を見る。感染分子進化→感染症がどのように広がっていったかを見る。疫病史→感染症の歴史を調べる。土地によって海の温度が異なることによってアフリカに大量の雨が降り、マラリアなどを引き起こした。コロナにはヒトコロナウイルスと SARS コロナウイルスがある。コロナウイルスはエンベローブという脂質の二重膜を持つ。直径は 120 から 160nm あり、楕円形で表面に王冠状の突起がある。

＊人口の一定割合が免疫を持つと、COVIDー１９は収束する。2、3 年後だと考えている。人体には約 2 キロの微生物が存在し、これは母から子へと継承されていく。しかし、抗生物質によって、減らされることで肥満などの生活習慣病が増えた。これまで医学は微生物を殺すことによる治療を考えてきたが、これからは微生物と共存、共生する必要がある。研究には理系と文系が存在するが、アプローチが違うだけで、目的は同じ。

＊災害が起こったときに大切なこととして、「支援拠点を作ること」「情報を集めること」の 2 つを教えていただいたので、もしものときは自分にできることを考えて実行したいです。また、医療生態学の内容がとても興味深かったです。感染症を人ではなく、虫や微生物の視点から見るというのが思いつかないような視点だったため、面白かったです。そして、自分という存在の中には微生物が組み合わせられてできているということにも興味を持ちました。

＊新型コロナウイルスについて、詳しく聞くことができたうえ、物事を見る新たな視点を得ることができた。それは人間側からではなく、対象側から人間を見るという視点だ。新型コロナウイルスは人間を駆逐してしまうのではないかと言われるが、ウイルス側からすれば、増殖に他の生物が必要なのだから、それはあまり考えられないとおっしゃっていた。確かに、言われてみればその通りだと思った。新しいことを考える時など、自分側だけでなく、全く違った方向から考えるのを意識したいと思った。

＊現代の日本は SDGs において地球温暖化問題や貧困をなくそうといった活動が行なわれていますが、その大半はまだ果たせていないと言われている。その中で、山本さんのお話をきき、東日本大震災のあと、支援するにあたって、情報がないと感じた時は 1 から情報をあつめるといったような行動力が素晴らしいと感じた。ウクライナ侵攻というロシアの侵略戦争により多くの避難民がヨーロッパやアジ

アに避難している現状私たちにできることはないかと考えこれから行動していきます。

＊私がこの講義で 1 番印象に残ったことはウイルスとは共存する必要があるということです。今まで細菌は根絶しなきゃいけないと思っていたわけではないのですが、確かに細菌が根絶してしまうと腸内を整えてくれたりする有名な細菌なども死滅してしまって人間に帰って悪影響が出てきてしまうのだなと思いました。またその重要な共存していく方法は次世代である私たちが見つけていく必要があるんだなとも思いました。

＊私たちは新型コロナウイルスが流行し始めてから、感染症に対する危機感がよりいっそう強まり、根絶される方向に進んでいっていますが、講義で、根絶されるのは決して良いものではなく、共生するのが 1 番の手段だとおっしゃっており、感染症に対する考え方が改められました。また、最近流行しだしたサル痘に対する質問にもしっかりとした回答があり、少々驚きました。最近の医療技術は進歩していますが、進歩しすぎると不便になってしまうようなこともあると感じました。

＊医療のことなど感染症や理系分野のことは興味を持って調べる分野ではなかったけれど、わたしたちの実生活に関わりのある話だったし、興味を持つことができた。文系、理系はあまり関係がないとお話の中で言われていて、やはりリベラルアーツ型の教育がいいかなと感じた。また、自分が無駄なことをしているとまた意味のない時間を過ごしてしまったと思いがちだけど、無駄なことなどは多分人生の中でなくて、全てが人生の糧になると思うことができるようになった。

＊人を守ることに対する気持ちの強さを感じた。コロナウィルスやサル痘関して多くのお話を聞いて、知識が増え、理解が進んだ。特に、サル痘に関しては、お話を聞いていた時には、サル痘に関心が向いていたので、興味深かった。そして、「数字は科学。その数字を見てどう考えるのか。」とおしゃっていて、なるほどと感じた。 また、毎回新型ウィルスに人類は翻弄されていくのかという問いに対して、「一定のウィルスの侵入を防げない。完全に根絶するのは逆に良くない。」とおしゃっていた。

＊コロナ禍に突入し何も知らないままコロナがいつなくなるのかを考え、何もできない理由をコロナのせいだと勝手にこじつけていた。しかし、この講義で実際にコロナの特性などについて知ることでコロナと共存していくことが必要になってくると思った。これまでと同じ生活を取り戻すということは難しいかもしれないが、コロナを根絶しようとするのではなく、コロナと向き合い制約された行動の中でも何ができるのかを考えて行動していきたい。

＊感染症に対して深い知識を得ることができました。講義を受けて土地の変化による感染症の種類、流行の研究にはとても興味がありました。感染症を防ぐために公衆衛生の研究を行うことは医学だけではなく国際協力にもつながるということが特に印象に残っています。感染症との付き合い方を改めて考える良い機会になりました。マスクの問題も含め感染症予防に対する海外の取り組み、そしてその日本との違いを知りたいと思いました。

＊新型コロナウイルスの影響もあり、ウイルスと聞くとどうしても悪いイメージを持ってしまいましたが、山本さんのご講義を受けて、ウイルスの全てが悪だとは限らないということを知ることができました。特に『ウイルスと共存することが大事』ということについて、人がある程度の耐性を持っていないと危険だということを知り、私達はウイルスと共存しているからこそ、風邪をひいても命の危険にはならないのだなと気づくことができました。今までの考え方を大きく変える経験ができたので良かったです。

＊山本さんの講義を聞いた事で、コロナのパンデミックが収まるのは不可能ではないのか、コロナウイ

ルスを根絶か共生のどちらの立場で対応したらいいかを決めるのはとても難しいことだと思った。しかし、コロナが収まるのを待つのではなく、受け入れて生活をせざるを得ないのかなと感じました。ハイチから身一つで脱出した話は、聞いていてとてもハラハラしましたが、医師としての仕事を最後まで果たそうとした山本さんに尊敬の念を抱きました。

＊山本太郎氏の講義はとても難しかった印象がある。彼は今では全ての人が存在を把握し苦しんでいるコロナウイルスと最前線で戦っている。ウイルスの難しさを語ってくれた。「ウイルスはやっつけないといけないけど、やっつけちゃうとデメリリットもある。」そして、そのデメリットは計り知れないものになる可能性もある。山本氏は人類は多くの危険に晒されていると語った。そしてそれら危険は全て複雑に絡み合い、たびたび大規模な災害を引き起こすと。人類は進化を続けなければいけない。

＊10 月に学校の研修旅行で、私は東北の「災害と医療」のコースを選択し、東日本大震災のときの医療現場について現地を訪れ学んできます。今回の講演はそんな私にとって、ぴったりな内容で大変勉強になりました。今回浮かんできた質問を実際に山本先生にお答えしていただくことができなかったので、10 月の東北研修でぜひ聞いていきたいと思います。また、先生がおっしゃっていた「根絶ではなくウィルスとの共生、共存」という言葉にとても納得できました。大変勉強になった講演でした。

＊コロナウイルスの収束を目指すには、コロナウイルスをゼロにするのではなく共存や共生が大事だと知りました。また、微生物は体に悪そうなイメージがあったのですが、逆になくなると体に影響があると知りました。

＊感染症を人間の立場からだけでなく、生物やウイルスの立場から見る研究が面白いと思いました。また、疫病史というのも他のことと同じように過去から学ぶことがあることに驚きました。現在のコロナウイルス感染症などが大きな例となる感染症に対する見解など、全ての人にとって正しいことはなく、データや調査による科学のあとの判断になるという考えにとても感動しました。自分もそのように考えられるようになりたいと思いました。

＊今、時代の中で、病原体のことは非常に重要になっている時にこのようなお話が聞けてとてもよかったです。生物学的なものなかで、「私」とは何かと 思うと、生かされている存在なんだ思います。 自然と共存することは人間の使命であり、そしてもっと改善していかないといけないことだと思いました。

＊山本さんの講義の中でハイチの大規模地震によってその半年後これらが大流行したというお話がありました。地震が起こったことにより衛生状態が悪くなり、医療設備も十分でないことから大流行したとされているという事も知りました。日本でも首都直下型大地震が起こるとされており、もし大地震が起こったのなら衛生状態が悪くなり感染症の大流行する可能性もあります。だからこそ防災について日頃から備えておけることは備えておこうと思いました。

＊山本太郎さんのお話を聞き、文系・理系に囚われすぎてはいけないことを学びました。私は文系であるため山本さんの理系的な話を深く理解する事は出来ませんでした。しかし、病原体やワクチンなどといった理系的な情報に目を背けることが出来るわけではありません。普段生活していく中でコロナ禍のこともあり、ワクチンなどの話は世間的にも話題になっています。そのため、少しでも理科的な話にも興味を持ち、自身の為にも役立てていきたいです。

＊ハイチでの生活とこれらの大流行から始まり、劣悪な環境に潜む菌についてのお話を伺った。山本先生は「感染」を菌の視点から見るというキーワードに着目していた。まず新型コロナの種類分けから始

まり、ウイルス視点から見た見解をお話してくださった。ウイルスとは宿主が絶対必要であり、私たちと敵対したいわけではないかと考えていること、根絶できるウイルスとできないウイルスの線引きときて、一番心に残ったのは21世紀の課題としての「共存」を念頭に置いた課題解決という言葉だ。マイクロバイオームの存在と私たちの活かされているという事実、近代細菌学が微生物を殺そうとしていることのパラドックスも興味がひかれた。

＊ウイルスの変異と感染症の流行についてのサイクルを知ることができた。新型コロナウイルスの若い人のワクチン接種が、高齢者や基礎疾患のある人に対する社会防衛につながると知った。無症状の人も含めた免疫によって、症状がおだやかなヒトコロナウイルスのように早くなってほしいと思う。ある一つの感染症の流行が新しい感染症の発生を防いだり、逆に流行がおさまると免疫を失ってしまったり、難しいメカニズムだが興味深かった。

＊実際に現地に行かないと支援はできないということことが、印象的だった。ウイルスは、根絶ではなく、共生を目指すという考え方は今のコロナ禍の中で、とても大切になってくる考え方だと思った。

＊コロナウイルス感染症が広まっている現在の状況を身をもって感じている中で、細菌、ウイルスがいるほうが、無菌よりも良いというのは、少し意外だった。感染症対策として学校では手洗い消毒をして菌を出来るだけ取り除こうとしているが、確かに、キノコも菌であるし、酵母も菌であるから、「菌」というのは身近で生活を支えてくださっているのだと感じた。また、自分が使えるものを使って何をしたいか考えるというのは、自分の得意分野を使うことにも繋がるので実践してみようと思った。

＊まず、山本太郎氏の行動力に驚き、このような行動力のある人になりたいと感じました。そして、「やりたいことは真っすぐでなくていい。寄り道をしても結局はつながっている」というお話にとても励まされました。これから私は、興味を持ったことに全力で挑戦して、たくさんの経験を積んで、ライフワークを見つけられるように頑張りたいです。そして、寄り道も含め公開のない人生を送れるようにしたいです。

＊コロナの感染が始まってから約2年がたち、コロナという存在が生活の中に溶け込んでいるように感じる。 山本先生はコロナをなくすことより、コロナとどう共生していくかということが大切だとおっしゃっていた。自分もその通りだと思った。正直、コロナの対策を完璧にしていてもかかるものはかかってしまう。かかったあとにどうするかがカギとなるのではないだろうか。例えば、身の周りの回りの人が感染してしまったらその人のサポートをするということがある。ほかにもできることはたくさんあると思うので最善の行動をとりたい。

＊過去から学んで未来に活かす、未来を推測するという点では文系理系に変わりはない。→資料が違うだけでやろうとすることは一緒。あまりこだわりすぎずに使えるものは使う！柔軟な思考を持つことが大事。

今までのウイルスとコロナに関して→今までは条件によっては根絶できた。できないものかできるものかの違いは条件の揃い方による。人類で初めて根絶に成功した天然痘であればヒトからヒトへの感染しかしないこと。二度感染がないこと。無症状感染がないこと。超有効なワクチンの開発に成功したこと。等。終わりかけていたパンデミックを化学の力とタイミングが後押ししたイメージ。共存が大事。

＊コロナのせいで、制限がかけられている生活を3年間ほど過ごしてきているので、いつ収束するのかなどとてもきになっていました。感染症は微生物と関わりがあることがわかりました。コロナは変異し

やすいので、感染がこんなにも拡大しているんだということがわかりました。変異を抑える方法はあるのかということがとても気になりました。根絶は不可能であって、ここ2、3年はワクチンを打ち続けていかなければいけないということをおっしゃって、感染症の収束にはとても時間がかかることを身近に感じました。

＊ハイチ地震で亡くなった30万人の人々と生きる術を無くした人々が広場にテントを張って建て直しを図ろうとしても公衆衛生という観点から困難が降り注ぐことを知り、実際の現場では迅速な対応が求められ、一挙一動が命に繋がる緊張感を感じ取ることが出来た。講義の質問で助けられない命にどうやって向き合うか私は質問をしたが、その答えは向き合うことは出来ないが、自分が助けられた命に学んだことを活かしていくことが大切だと仰っていた。私はリー塾後、祖母が亡くなった。確かに向き合うことは出来ないが、時間をかけて少しずつでも祖母から学んだことを自分の人生に活かしていきたい。

＊感染症についてお話いただいて、感染症は根絶するのではなく、共生していくことを考えるということが大切という言葉が印象に残りました。身近なことから始めるということで肌の色の違いやジェンダーの違いについてお互いが知り、知っていくなどということがまず重要なことだと気付かされました。さらに、価値観の違いで分断が起きる可能性があるため、たくさん話し合いことが重要となってくるということも分かりました。また私自身エンベロープ(脂質の二重膜)を持っていないノロウイルスなどはアルコールをしても意味がないということは初めて知ってとても面白いなと思い興味を持ちました。

＊微生物と健康は密接に関係している。一般的に、微生物は悪者化されて、人々はこれをなくそうとする。しかし、なくしたらいいわけでもない。確かに微生物には私たちの健康を害するものも存在するが、一方で健康を維持するものが存在するのも事実である。だから、「共存」することが重要だ。必然的悪というのは存在しないように思う。それぞれには役割があり、複雑に絡み合っている。その一つを切れば、また別の問題を引き起こすのは当然である。

＊新型コロナウイルスのように、突然現れた感染症を社会から切り離そうとすることも大切ではあるが、何より共生していかなければならない。「感染症がある社会の方が強い」という言葉は、ウイルスが社会に果たす役割について考えさせられた。社会にそのウイルスの免疫をつけるためには、完全にウイルスを根絶することは危険である。パンデミックによって社会は今、混乱に陥っているが、ただウイルスを無くすことだけが正義では無い。with コロナという言葉があるように、私たちはウイルスと共生する方法を早く見つけていかなくてはならないと思った。

＊今大きく問題となっている新型ウイルスについて素朴な疑問をすごく分かりやすく説明して下さった。アメリカや日本ではコロナに対する向き合い方が違うがそれは優先順位によるものであり、どんな社会にしたいかが違いの原因になっていることが分かった。事実は 1 つでもそこからどういう見解を出すかは、それぞれだと分かり、それが科学の未来予測の研究者による差だということがなるほどと思った。

＊山本さんの講義の中で「夢は真っ直ぐじゃなくて寄り道から行く。でもそらは将来的に関わることがある」「時間軸と空間軸の中で残された情報から過去を再編集する」というふたつの言葉が印象的だった。前者の発言は私の心を少し軽くしてくれた。後者についてはよく理解できなかったが、沈さんが言っていた、「視点はつねにむかしのこと」ということに繋がるのではないかなと思った。

＊リーダー養成塾に来る直前に毎日新聞で見た記事にあった方がこられていてびっくりしました。長崎

大学の熱帯医学の研究には興味があり、大学受験の志望校の候補の中に入っているため今回話を聞くことができて嬉しかったです。さまざまな話がありましたが、私が 1 番感じたのは私も将来ウイルスと共存できる社会を作るために働きたいと思いました。お互いの領域や生息基盤を尊重し、距離感を保つために人間の行為に依存した現象をなくしていくことも大切だと思った。

＊〇学んだこと

2010 年のハイチ地震では、国際緊急援助隊医療チームの一員として派遣された。被災地の劣悪な環境の下、避難民キャンプではテント生活のため、コレラが大流行した。下痢を処理するために、ベッドのおしりの部分が穴を空けることで、ベッド下に汚物のバケツを置くなど、臨機応変に対応した。

〇講義の感想

災害現場での医療活動は、病院での設備がないため、限定的な治療にならざるを得ないものの、より効果のある方法を見つけ出すための臨機応援な考え方が必要であります。自分は医療や研究には興味がなかったのですが、話を聞くととても奥深いものでおもしろかったです。たくさんのウイルスや病原菌と真摯に向き合うことができる人たちがすごいなと思いましたし、尊敬する。go to the people.という言葉を糧にして人が少なく文化が違う国に乗り込んでいける、そしてそこで生きて生活することができる山本さんがすごすぎると思いました。

＊山本さんは現在感染症を研究されており、今私たちの生活に密接に関わっている新型コロナウイルスだけでなく、感染症自体の話をしてくださり、コロナに囚われている日本の情報の中で暮らしてきた私の視野が広がった。感染症は必ずしも悪いものではないこと、感染症と共存する方法、なくなる病原体の特徴、無くならない病原体の特徴、衛生環境の重要性が分かった。

＊コロナやさる痘は今、社会現象となっており、詳しく知りたいと思っていたので、とても興味を持って聞けました。先生の話の中で印象に残ったことは、さる痘はコロナより症状が深刻ではないため、すぐ治まり後遺症や再感染することがほぼないということと、コロナはあと 3 年ぐらいしたら、治まるだろうと先生が言っていたことです。もうアメリカやヨーロッパの方では、マスクを外して今まで通りの生活をするという対策をとっているので、日本でもマスクを外して生活をする日がもうすぐ来るかもしれないと思いました。

＊一つの問題を解決したい時に、さまざまな分野を用いて問題解決をするというアプローチが興味深かったです。文系理系で区切って物事を見るのではなく、問題解決に適切な手段を取るというところが素敵だなと思いました。私は、興味のある分野が多く、進路を決めきれないため、自分が本当に興味があることを見つけようと思い、リーダー塾に参加しました。しかし、一つに絞らず、分野を超えて学ぶ必要性を感じ、自分の興味に自信が持てました。ありがとうございます。

＊最近コロナウイルスについての報道が少なくなってきている一方、コロナの感染者数は減らないという状況を見て、コロナによる今の状況が元に戻るのはいつなんだろうとずっと不思議に思っていました。しかし、先生が「社会が終わりだとみなしたら、終わる。」と仰っているのを聞いて、深く納得しました。また、コンピュータシュミレーションを使って正確な結果がでるように研究されていることを知り、とても感動しました。

＊ウイルスや感染症に対する認識が改まった。これまではただ漠然と「敵」のように感じていたが、共生するモノ(生命体かどうかは分からないが)、時に災害で人を襲う自然の一部であるから、人間の基準での善悪に収められるものでは無いのだと思った。ウイルスや感染症との関係は、「敵」ではなく「共生」

だという認識を持ち、調和が保てる対策・生活を考え、実践していこうと思う。

＊ ウイルスは根絶するのではなく、共存することが重要という考え方が自分に今までなかったものだったので、面白いなと思った。感染症への免疫があるから多様な社会をつくることができるなど、新たなウイルスの防波堤になるというのを初めて知って、印象的だった。また、私はあまり深く考えずにコロナのワクチンを打ったが、若い人のコロナワクチンは自己防衛のためではなく、社会防衛参加のためだったと聞いて、コロナワクチンが安全でなかった可能性もあるため、しっかり調べて考えて選択すればよかったと少し後悔した。

＊先生の考えに私はすごく共感できました。例えばもし文系で就職がふつうと言われる外交官を目指すとして理系文系関係ないのだという話がありました。何かをやり遂げるのに色んな方法があるということが強くこころに残りました。そして先生はコロナの患者さんやコロナの研究を通して新しい壁がたちはだかった時にいかに柔軟に克服するか考えられる思考が大事だということを念に推していました。今後常に考えることが大事だと感じましたし、そのためには自分を断崖絶壁の境遇に置かなければいけないと思いました。

＊山本先生の講義ではコロナを含む疫病とワクチンの関係について学んだ。行きすぎた抗生物質の使用が微生物の死滅を招き、新たな病気を引き起こしてしまうためウイルスと共生していくという考えが新鮮に感じた。そして、今ワクチンは社会合流の許可証としての役割を果たしており、私達がワクチンの効果やリスクを考えずに接種することは危険だと思った。また、それを判断する能力も求められていると思う。

＊講義の中でヒトコロナウイルスや天然痘などの感染症の事例の紹介があった。その上で過去にどういうことが起きて未来にどう活かせるかを思案することは感染症の対策だけでなく、他の分野にも応用できる大切な観点だという。また、新型コロナウイルスへの各国の対応を比較し感染症と共存していく選択肢を示唆し、日本での若い世代に対する社会防衛参加を一方的に求めたことは説明が不十分であったと指摘した。外からの情報は自身で理解してから飲み込むことが重要だと感じた。

＊私は凹む事が多いです。けれども、山本先生の「まっすぐではなく、寄り道をしてもその後の人生に活かされる事がある」という御言葉を頂いて、凹む事もあるけれど自身の経験、人生に活かされると思い、前向きに捕えていこう、そして凹んだのなら、満足できる程度の所まで軌道修正し、求める方へ変えていこうと思いました。前向きな考えをもつことはリーダーになる上で大切だと思いました。ありがとうございました。

＊新型コロナウイルスが現在猛威を振るっていますが、このような感染症がある状態は、かならずしも悪いとは言えないんだと思いました。感染症がずっとなくなれば、人間がそれに免疫を持てなくなり、もし流行したときに被害がかえって多くなるというお話も印象に残りました。

＊医療の最前線という、過酷な環境下で仕事にあたっておられる山本さんのお話はウイルス史についてだった。現在、新型コロナウイルスが世界的に猛威を振るうなかで、これを根絶できると主張する人もいる。しかし、致死率が極めて高いウイルス（狭いエリア内だけで流行することが多い）が台頭することを抑止するために、できるだけ多くのその他の感染症と共存すると、それが大きな防壁になってくれるのである。このパンデミックもそのための糧ととらえれば、悲観的な気持ちばかりで毎日を過ごすことも減り、精神衛生上も良いかもしれない。

＊内戦をその場で見ていて、見ることと聞くことは全然違うとおっしゃっていた。やはり、「百聞は一見

にしかず」であるなと感じた。また、人間と自然が一緒に共存することは、難しい。もともとの感染症の原因は野生動物であって、そのことを考えると、自然の敵であるからだ。他に、文理にとらわれなくていいとおっしゃっていた。大学は現在、文理で分けられているが、興味のあることが違う分野でも繋げられることはあるのかなと、考えた。

＊今の段階から色々な寄り道をすることはいつか将来で役に立つことがあるはず、という言葉が印象的でした。自分が興味のある分野だけでなく、他の色々な分野にも触れていくことを今まであまりしてこなかったので、色々なことにチャレンジしようと思えるきっかけになりました。また、医師として社会貢献したいという気持ちがますます強くなりました。ウイルスが根絶することはない将来、ウイルスとの共存、共生を目指していかなければならないと改めて思いました。

＊私は山本先生の講義を受けて印象に残っていることは、「内戦や難民支援で救えない命についてはどのような思いなのか」という質問に対し、「失われた命に対しては敗北感しかない。だから、救える命を懸命に救うことが使命だと思っている」と仰っていたことだ。私の将来の夢は医者になることで、山本先生の発言には心打たれた。もちろん救えない命というものは、医者人生の中で多々あるかもしれない。しかし、落ち込んでいるのではなく、救える命があるのなら一人でも救うという心意気が大切だと学ぶことができた。この心意気を忘れずに医者になるために精一杯努力していきたい。

＊この講義の「価値観の統一は分断しか生まない」という言葉がとても刺さりました。グループで何かをする時、全員同じ考え方だと楽です。しかしそれは面白くないですし、その過程で分断を生む。頭で理解しても、行動に移せているのか、、、。シンプルですが難しい事でもあると思いました。

＊「感染症は社会の中に組み込んでいくべき」という考え方が自分の中にはなかったので、すごく面白かったです。自分の嫌なこととか危害を加えるものは基本排除するものだと思っていたのですが、アレルギーや感染症などある程度関係があった方が自分の安全を保てるのだということを知って、意外な結果をもたらすことがあるのだと思いました。

＊新型コロナウイルスの感染が拡大している中でウイルスとどのように向き合えば良いかが分かってよかったです。また絶滅するウイルスと絶滅しないウイルスがあってそれの判断基準がたくさんあって絶滅するのが難しいということに驚きました。 また国によってコロナウイルスに対する価値観に差があるという話も面白かったです。 新型コロナウイルスは今後どのようになっていくのかが全く想像できないのですごく興味深かったです。

＊山本先生は、今世間を騒がせている新型コロナウイルスなどのウイルスについて研究者としての意見や見解をお話ししてくださいました。専門家の共通理解としては、この新型コロナウイルスを根絶させることは不可能であると言う。では、私たちはこのようなウイルスとどのように向き合えば良いだろうか。これについて先生は、今感染症に免疫を持つような強い社会を作るためには、それを穏やかにして社会で受け入れることが必要だと仰った。

＊今回の講義で、with コロナや、医療支援について詳しく知ることができた。医療支援では、現代の 日本で生きる私からしたら想像もできないようなことだった。現在、「サルとう」「新型コロナウイルス」の 2 つの感染症が流行しているが、感染症を上手に向き合い、根絶するのではなく、共存していけるようなに暮していきたいと思った。

＊ハイチでのご活動や東日本大震災についてのお話が印象に残っている。内戦下にあったハイチでのご活動、およそ 30 万人が亡くなったハイチ地震により流行したコレラへの対策をなさってきた。東日本

大震災では、支援拠点を置き、長崎大学が、何ができるか伝えられたそうだ。また、ウイルスとの関わり方が、現在の「ウイルスを殺す」から「ウイルスと共に生きる」に移り変わるのではないか、とおっしゃっていた。医師を目指している私にとって山本先生のご講義を聞けたのは貴重な体験となった。

＊ウイルスが宿主を必要とすることから、究極的に宿主の存在を否定することはせず、実際に、現在でもほとんどのウイルスは人間に無害であるか利益を与えることや微生物が人間の体の中に約 2kg いて、いなくなると肥満や感情にまで影響を与えるが、近代細菌学では菌やウイルスを殺すことで感染症を克服し、いまでは逆に殺しすぎではないかと言われていることなど、知らないことだらけでとても知的興味心を惹かれました。

＊コロナウイルスの蔓延によって日常が全て変わってしまいましたが、コロナウイルス自体が一体何なのかを詳しく知らなかったのでとても勉強になりました。最近流行っているサル痘についても過去の天然痘と関連づけて解説して下さりとても分かりやすかったです。天然痘は様々な条件が揃ったことで完全に無くすことが出来ましたが、他にもこういう事例がないかが気になりました。

＊「科学／価値観」の関係から、これからの新型コロナウイルスとの向き合い方を学んだ。科学で証明されたことは正しいのだが、それをどう捉えるかは各々違って、どのような社会を望むのかという価値観の違いによって、若者の「社会防衛参加」が生まれていると思う。また、天然痘は①2 度かからない②有力な薬が開発された③動物への感染がない④症状が必ず出る という 4 つの特徴があるので根絶可能であったが、新型コロナウイルスはこの 4 つを満たしていないため、根絶が難しいということを学んだ。

＊教育学の面白さに触れることができました。実際に今の時代に適合していくにはどうしたら良いかなどが知れてよかったです。

＊新型コロナウイルスの感染拡大により、感染症理解が進んだ世の中において貧困と感染症の関係に加え、病原体の存在意義についての考察が語られた。国際保健政策活動の一環である医療・難民支援を円滑に進める際に被害状況等を把握をすることが要となり、経済や政治の視点も必要であると述べた。この講義にて述べられた、人に害を与えるウイルスは 0.001%であり、ウイルスは宿主の存在を絶対的に必要としている為宿主の生存を確保する方向に進化するという考察より、共存・共生という観点はどの分野においても有効であると考えた。

＊私は、数学がどうしても苦手で文理選択で文系を選びました。しかし、好きな教科は理系分野が多く、少し後悔していました。山本さんが文系理系は関係ないと話されていて、理系から離れなくてもいいのだと思いました。違反氏の内容とそれてしまうのですが、山本さんの研究理念の「夜来たる」というお話にすごく心惹かれました。たった数文ですが、とてもすてきだなと思いました。

＊震災のときに一番必要になるのは医師なので、そのときに臆せず駆けつけるというのはとても尊敬した。人間の自然の操作によって、不自然な反応が返ってくる、ということが今問題になっていて、なるべく自然に影響を与えないような、自然と共生できるような医療を目指す、ということは言うのは簡単だけど、実践するのは難しいだろうなと思った。コロナの各国の対応でも、自然に身を任せた国が対策がうまくいったとは言えないし、そもそも何がいいのかが、時間が経たないとわからないので、これらの未知なる敵と戦うのは正解の無い問いを考えることと等しいのだと思う。自分も将来このような研究をしたいと思った。

＊昔の時代を生きていた人たちの、病気に対する「悪い空気によるものだから、自分達にはどうすること

もできない」という認識があったと聞き、とても驚ました。

＊ウイルスは宿主である生命体無しでは存在できず、ウイルスの根絶よりウイルスとの「共生」「共存」を目指すべきなのではないかというお話がとても心に残っています。先日、私の通っている城南高校で長崎大学の移動オープンキャンパスが開催されました。興味がある分野を見つけ、大学に進学し、社会貢献に尽力したいと思っています。自分の将来についても考えられる機会になりました。

＊環境医学、医療生態学、観戦分子進化、疫病史から野生動物/微生物から人間への感染症が蔓延する現代社会は文理問わず、過去にしていたことを文献などを参考にすることという話が印象に残っている。エイズやインフルエンザのように今でこそ減少したウイルスから習って現在猛威を振るうコロナウイルスとの共存が必要だという話が印象深かった。人類とウイルスの共存が叶う将来を実現するためには、古い文献などを顧みて、新しいウイルスとの共存を目指していけるようにしたいと思った。

＊・大学では研究と教育で社会に貢献している
・感染症の原因は微生物
・ウイルスの遺伝子の解析から今後の推察までできる
・感染症に対する100％の有効手段は存在しないし、根絶は不可能→感染症との“共存”
・ヒト・マイクロバイオーム

＊私は、ウイルスは根絶させた社会をつくることが研究者たちのゴールだと思っていたけれど、少し発想を変えることで逆に共生する社会をつくることを目標にして研究、開発ができるのだと思いました。コロナウイルスに関して、今から十年後には子供が小さいうちに感染して免疫の一部を獲得することで大人になってコロナウイルスに感染しても軽症化するという免疫の仕組みを知ってまた前のような日常が戻る日も近いなと思いました。無知であることは悪くはないですが知ることによって間違った情報に振り回されなくていいのだと感じました。

＊夢、まっすぐ行く必要はなく寄り道しながらでもよい。大学、「研究、教育」この二つを積極的にやるとよい。調べ方に理系も文系もない使える調べ方はすべて使うべき。コロナ、一本鎖のRNAでできているため変異しやすい、案外10年後には穏やかな風邪として存在しているかもしれない。ウイルス、宿主が滅亡するとウイルス自体も滅亡してしまうため基本的に宿主を敵対しない、その中でも0.1％もしくはそれ以下がたまたま病気を引き起こしてしまっている。

＊山本さんの講義を受けて、感染症の視点から見た世界の歴史と流れが分かりました。感染症をなくすのではなく、感染症といかに共存するかが大切だと感じました。山本さんが実際に経験したことから、命と向き合うことは失われた命を背負っているということだという言葉がとても印象に残っています。たくさんの学びがありました。

＊「失われた命とむきあう」と言う言葉が印象に残りました。医者は周囲からはわからない程、実は辛い想いは沢山していてメンタルにくる仕事だと思うけど、その中での辛いこともプラスに変えて前向きに、次に繋げているのが凄いなと思いました。これは、医者だけではなく勉強でも今後仕事をしていく上でも大切なことだと思います。自分と、現実と、過去と、「向き合う」ことを大切にしようと思いました。

＊天然痘が根絶されたことで、免疫がなくなりサル痘が発生したことを聞いてただ感染症をなくすだけでは終わらないということに恐怖を感じた。新型コロナウイルスについても知ることができて、専門の方に直接聞くことはなかなかできないので嬉しかった。病原体は必ずしも悪なのかと考えてなにか存

在する意味があるのではないか？という山本さんの意見は見習いたいと感じた。そして「人々の中にいきなさい」という言葉を胸に私も挑戦したいと思った。

＊コロナウイルスは将来は大人でも軽症で、軽い病気の扱いになるとおっしゃっていたが、免疫がつくためにはやはり時間がかかり、重症化するかもしれない病気に一度はかからなくてはならないんだなと思いました。ウイルスを無くすのではなく人間と共存できるウイルスで埋めることで新たなウイルスが入りづらいというお話はすごくわかりやすかったですし、そのような専門的な知識を持っている方からしか聞けないと思うので良い経験となりました。